

国史跡 京極氏遺跡

弥高寺跡

伊吹山から南に張り出す尾根の中ほど、標高約700m付近に築かれた山岳寺院が、「弥高百坊」と地元で伝えられている弥高寺跡です。

弥高寺は、山岳修験の祖といわれる役行者や加賀白山の泰澄が入山し、仁寿年間（851～4）、三修によって整えられ、のちに国家公認の定額寺となつた伊吹山寺を前身とします。のちに分立した伊吹山四ヶ寺（弥高寺・太平寺・觀音寺・長尾寺）の中心的寺院だと考えられます。

60を超える坊跡群は、東西約250m、南北約300mの範囲に集中し、「本坊（本堂）」跡を頂点として、中央の道をはさんで、下方へ扇型に広がります。本坊跡は、最大で東西約68m、南北約59mを測り、中央山手に基壇状の高まりがあり、最大で一辺18m四方の南面する建物を想定することができます。弥高寺跡は、山岳密教から展開した中世山岳寺院の中でも典型例で、高山中腹にあり、大規模でまとまりのある姿を見ることができます。

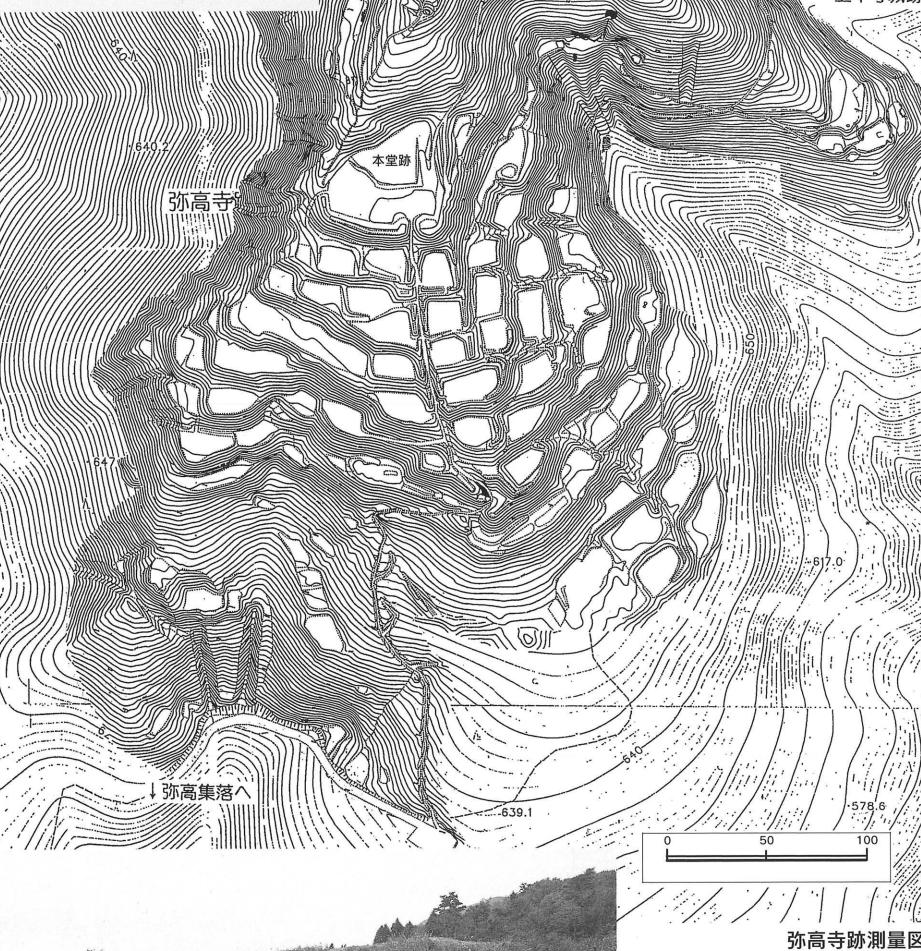
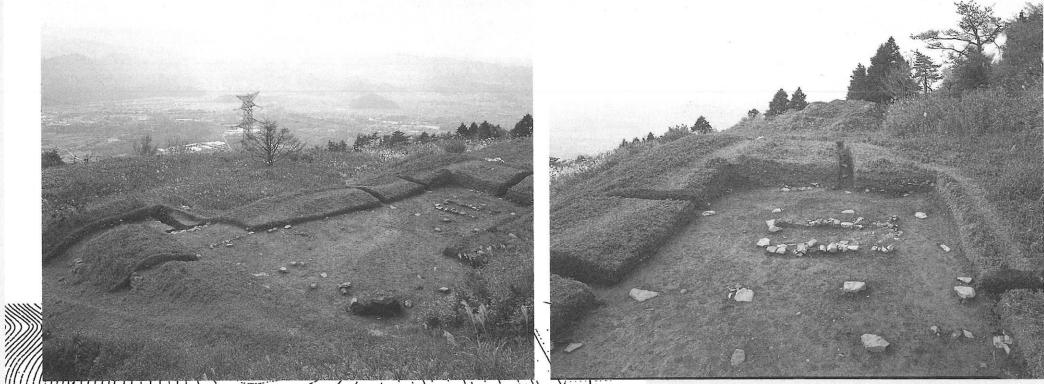
一方では、京極氏あるいは浅井氏によって城郭的施設が付け加えられた、軍事的色彩の濃い山岳寺院であることもわかつてきました。柵形状の「大門跡」や、本堂背後の竪堀群、山頂からの尾根を断ち切る巨大な堀切はみごとです。

永正9年（1512）、兵火により焼失しましたが、天文9年（1540）の文書には弥高寺の坊名が残り、天正8年（1580）に山の西麓へ移ったといわれます。



弥高寺本堂跡発掘状況

本堂跡の発掘調査では、直径90cm前後の礎石を検出しましたが、残り具合が悪く間隔も統一されていないため本堂の構造は不明です。基壇側面では二段の石積みを検出し、ここまで縁が張り出した大きな建物だったと考えられています。礎石や石積みは焼けて細かく割れており、記録にみえる永正9年（1512）6月の火災によるものと思われます。本堂の規模については、元禄5年（1692）の調書に「往古者七間四面」と記載されています。



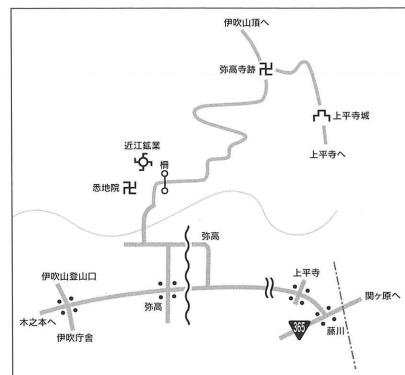
弥高寺跡測量図



参道の石垣検出状況

そぼう 僧坊跡の発掘調査では、三間×六間の庫裏と仏堂を兼ね備えた礎石建物を検出しました。庫裏では火床（囲炉裏）跡を山岳寺院ではじめて発見しました。

出土遺物は、明かりとりの土師皿や貯蔵用の甕などが多くを占めますが、輸入品の青磁の碗や、香炉・花瓶などの仏具、仏像の宝冠や錫杖の石突などもあります。古銭や釘も多く見つかっています。その年代は、15世紀後半が中心です。



弥高寺へのアクセス

JR近江長岡駅下車。交通機関は便が悪いため、タクシー利用約15分。悉地院から近江鉱業弥高鉱山を経て弥高寺跡まで歩徒約60分。上平寺集落から京極氏館・上平寺城を経由する道もある。

国史跡 京極氏遺跡（弥高寺跡）

指定年月日 平成16年2月27日
所 在 地 滋賀県米原市弥高

米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1206番地 TEL.0749-55-8106

平成19年度 市内遺跡保存活用事業